

事業所名

ぱれっと/ぱれっとやまと

## 支援プログラム（参考様式）

作成日

2024年

8月

2日

法人（事業所）理念		私たちの願いは、地域社会の中で誰もがバリアフリーな暮らしを営むことができるようになることです。障害児者福祉の一翼を担う私たちは、人の持つ無限の能力を信じ、それが十分に発揮されるような環境づくりを目指します。					
支援方針		①専門職（言語聴覚士と臨床心理士・公認心理師）による個別・小集団療育の実施、②ご家族とともに歩む、③地域とのつながり、の3つの基本方針を大切にしています。一人ひとりに合わせたオーダーメイドなプログラムで、子どもたちが自分に自信をもって、楽しい毎日を送れることをサポートします。					
営業時間		9時	0分	17時	0分	送迎実施の有無	あり <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">なし</span>
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	年齢や発達段階に合わせ、生活スキルを重要な療育のテーマと考えています。調理、食器洗い、ゴミ分別、お買い物、洗濯物を干す・たたむ、などなど…お子さんに合わせて様々なことを目標に掲げて取り組みます。					
	運動・感覚	粗大運動（マット、トランポリン、ボール、サーキット運動など）、微細運動（はさみ、描画など様々な手指操作）などの基礎的な運動遊びからスタートします。また、様々な感覚を刺激する感覚遊びを取り入れています。お子さんによっては、自分の感覚の偏りを自覚し、対処行動を一緒に考えるようなこともテーマとなります。					
	認知・行動	基本的な学習態度の形成、全般的な認知発達の促進は、療育の基本の柱です。視覚認知、記憶、文字・数など様々な領域を目標に掲げます。お子さんによってはアカデミックスキルの獲得についてもサポートします。					
	言語コミュニケーション	言語コミュニケーションも私たちが大切にしている基本の柱です。初期の言語発達のサポートはもちろんですが、年齢や発達段階に応じて様々な段階の言語コミュニケーションスキルを取り上げます。人とのやりとりが楽しい！と思う基盤を育てます。					
	人間関係社会性	個別療育の担当者は一年間固定し、年度ごとに交代します。どの先生ともコミュニケーションがとれるという経験から、安心安全な人間関係を感じてもらいます。グループ療育もメンバーと担当者を一年間固定し、設定や見守りが丁寧にある中で、人間関係の成功体験を重ねていきます。					
家族支援		送迎は行わず、個別・小集団療育ともに終了後にご家族との面談時間を設定しています。また、ご家族だけのご相談にも応じています。			移行支援		高校生を対象に、法人内の日中活動事業所での一日体験を行っています。その他、環境が変わる際に申し送りシートを作成することもあります。
地域支援・地域連携		必要に応じて、所属の園・学校や医療機関など多くの関係機関と連携しています。お子さん一人一人に支援チームがあり、私たちが見ている姿はほんの一部です。チームから情報を得ることが大切と考えています。			職員の質の向上		専門職として日々研鑽を積む必要があり、法人内外の研修への参加を奨励しています。事業所内ではケース会議の時間を設けたり、日常的にOJTの機会を多く設けています。
主な行事等		法人行事に参加しています。作品展に向けて製作活動に取り組んだり、フェスタや夏祭りでお店屋さん体験をしたり、クリーンウォークでは地域貢献活動をしたりします。その他、グループごとに行事を計画し、お菓子作りなどを行うこともあります。					